

3月1日～7日は 春季全国火災予防運動

2021年度 全国統一防火標語

「おうち時間 家族で点検 火の始末」

■春先は火災が起きやすいシーズンです！ 春先は空気が乾燥し、強風が吹きやすい季節です。ひとたび火災が発生すると、瞬く間に火勢が広がり、被害が大きくなりやすいため、屋外での火の取り扱いには十分な注意が必要です。

■屋外での廃棄物の焼却等は、一部の例外を除き、禁止されています
右記の例外として認められる廃棄物の焼却を行う際は、気象条件や近隣への影響を確認した上で、消火用の水バケツ等を準備し、その場を離れずに行うようにしましょう。

【例外】

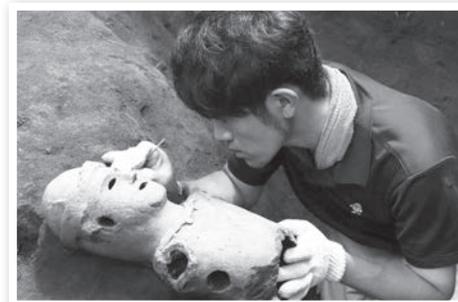
- ▽風俗慣習上または宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却
- ▽農業・漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却
- ▽たき火など廃棄物の焼却であって軽微なもの

【問い合わせ】ひたちなか・東海広域事務組合消防本部予防課(☎271-0735)



村火災予防ポスターコンクール 最優秀作品(舟石川小学校6年 照沼 優吾さん)

私が初めて遺跡の発掘調査を経験したのは、大学1年生の夏のことでした。当時は発掘の右も左も分からない学生でしたが、突如地中から姿を現す土器や埴輪を前に、激しく心を揺さぶられたことを今でも鮮明に覚えています。その日から16年経った今でも私は、「歴史を変える大発見があるかもしれない」という期待を胸に発掘調査をしています。今回は、昨年の6月に、私が歴史と未だの発見に心が躍った「戸ノ内古墳」についてお話しします。



【発掘調査風景(戸ノ内古墳)】

東海村の北部、石神外宿に所在する戸ノ内古墳は、今から約1500年前に造られた古墳です。墳丘の大半は削られ、当時の形をとどめていませんが、その一部が願船寺の敷地内に残っています。実は本古墳の存在が世に知られたのは、平成20年度の下水道工事がきっかけでした。古墳の周溝から発見された人物埴輪は精巧なつくりの優品で、多くの専門家から注目を浴びた一方、

最後に、私が発掘をする上で常に心掛けてことがあります。発掘は遺跡を解明すると同時に破壊する行為でもあります。そのため調査者の責任は重く、一度限りのその機会に最大限の情報を記録しなければなりません。だから私は、「スコップを持つたら迷わない」と心に決めて発掘調査に取り組んでいます。

よみがえる石神の埴輪

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

歴史と未来の交流館学芸員

中泉 雄太

古墳の形や大きさが不明でした。このため、古墳の範囲を解明することを今回の調査の目的とし、発掘調査に取り掛かりました。

調査当日、アスファルトで舗装された願船寺の進入路入口に、幅2メートル、長さ5メートルの調査区を設定し、重機で掘削を開始しました。今でも忘れられないのは、1メートルほど掘り下げた深さの所で「カチッ！」と何かが当たる音がしたこと。地面に下りてみると、その正体は埴輪で、ここが古墳の周溝であることの証拠でした。私たちは周溝の調査に取り掛かり、写真のような人物埴輪や家形埴輪を発見しました。一か所からまとまって出土したこれらの埴輪は、いったい何を意味するのでしょうか。今後の分析に期待が高まります。